

細江カトリック教会だより

新年号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura>

前向きに生きる

お正月は誰もが穏やかな一年を願いながら、「明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします」と、挨拶を交わしますが、元日に石川県能島半島地方で地震があり、その翌日には羽田空港で飛行機の事故もありました。その為に「今年は大丈夫かな？ どうなるかな？」や「2024年は波乱の年になりそうだ」などといったような、先々ちょっと不安になり心配する言葉は時々耳にします。まずは、地震に遭われた方と飛行機事故でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。そして、被災地で大変な生活を強いられている方々が一日も早く日常を取り戻せますように、お祈り致します。

さて、新年早々に起こった出来事を考えていた時に、「365日の紙飛行機」という曲が頭に浮かんできました。実はこの歌はNHK朝ドラ「あさが来た」で放送開始が2015年でした。最初は日本語を覚えるために、聴きましたが、聴けば聴くほど心の琴線に触れました。



「朝の空を見上げて今日という一日が笑顔でいられるようにそっとお願いした時には雨も降って涙も溢れるけど思い通りにならない日は明日頑張ろう」

歌詞が本当に胸に刺さりました。しかも、優しいメロディと歌声が心を癒やしてくれて大好きな歌の一つです。元気が出ない時や悩みがあったり、落ち込んだりした時、勉強に疲れた時に、この曲を聴いて「頑張ろう」と自分自身に話しかけ、良い気分になり勇気づけられます。

一番の歌詞にあるように私たちが思った通りにならなくても、朝の空を「見上げる」ことは一日に十分に良い影響を与えます。植物は光に向かわなければ、花を咲かせないように、私達も神様に信頼・希望を置かなければ、心配や不安を乗り越えることができません。私達キリスト者にとって、「朝の空を見上げる」ことは神様を見上げ、神様にひたすら信頼をささげて生きることでしょう。言い換えますと、神様に信頼することは私たちに生きる希望を与えることとなります。希望あるいは信仰を持ち続ける限り、いくら困難があっても生き続けます。

「人生は紙飛行機
願い乗せて飛んで行くよ
風の中を力の限り
ただ進むだけ
その距離を競うより
どう飛んだか どこを飛んだのか
それが一番 大切なんだ さあ 心のままに」

この歌詞の通り、結果よりもその「過程」が大切です。その過程において、さまざまな困難とぶつかったことがあっても諦めずに神様に信じ続けることが一番大切です。教会にどれほど財産を寄付するかより、貧しい人々にどれほどお金を捧げるかより、教会と人々をどれほど大切にしているかの方が大切ではないでしょうか。



「人生は紙飛行機
愛を乗せて飛んでいるよ
自信持って広げる羽根を
みんなが見上げる
折り方を知らなくても
いつの間にか飛ばせるようになる
それが希望 推進力だ」

この言葉の中には、「あなたがたは世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」(ヨハネ16:33)と言われたイエス様の言葉が響いています。すでに世に勝利されたイエス様がおられるので、勇気を出すことができます。

私たちが苦難に見舞われ絶望の淵にいる時、私たちをそこから引き出してくださるのは、神様しかないでしょう。

物事が困難で、生きることが耐え難く思える時、前向きに生きそれを乗り越えることが恵みの一つです。乗り越えた後には必ずいいことが待っています。「2024年はどうなるかは全くわかりませんが、神様の祝福があると強く信じています。

グエン・ヴァン・トアン神父



細江教会聖堂の思い出 V

細江カトリック教会の思い出 (with 三位一体の聖体宣教女会)

昨年11月下旬に教会ミサに行ったとき、車を駐車場に置き、降りてふと前を見たとき、何か違和感を感じました。そうです、いつも見慣れた教会の上部が無くなっており、あ一、遂に解体が始まったと万感の思いにかられました。その瞬間、略70年間の出来事が走馬灯のように頭の中を駆け巡りました。

(副題) に with 三位一体の聖体宣教女会としたのは、私が細江教会で受洗したのはこの修道院のシスター達との出会いがきっかけだったからです。

当時疎開先の川棚の家が類焼で焼けてしまい着のみ着のままで丸山町に仮住まいをしていた時、母は近くの病院で弟を出産しましたが、同じ病室に教会の信者さんが入院しておられ、その方を通じてシスターとお話をするようになり、それから毎週のようにシスター達が産着やら栄養のある食べ物を差し入れてくださいました。また優しく時には愉快なお話で、母を慰め励ましてくださいました。母は涙を流し感謝したこと、今でも思い出されます。退院後父母の受洗に始まり、あっという間に家族全員がカトリック信者となりました。

そのころの細江教会は4人の日本人の神父様が赴任されており(中山、丸川、武島、大倉各神父様)、今から思うとなんと贅沢な時代だったかと思えます。又学生も20人近くおりミサ後の集まり(一応勉強会)は本当に楽しい時間した。

そのためにミサに与っていた(?)。また、当時の聖堂は1階のホールであり、聖体拝領の際は信者は上にあがり15人くらい並んで拝領しました。皆さん恥ずかしそうに舌を出し神父様と侍者が順番に御聖体を舌に乗せていくのです。

また、私が侍者の御役目になったときは、ミサ中神父様との応答は全てラテン語であり苦勞しました。ラテン語の指導は神父様と、高校の1年先輩の肥塚神父様であり学校の教材よりも勉強したことは懐かしい思い出です。まさに細江教会の揺籃期^{ようらんき}と言ってもいいでしょう。最後に、私達を導いて下さった多くの神父様の中で4人の神父様の思い出を述べてペンを置きます。

Fr. 中山…細江教会で最初にお会いした神父様で、容貌からして外国人との印象でした。厳しい神父様でしたが笑顔の素敵な方でした。

Fr. 丸川…温和で叱られた記憶がありません。祖母（70歳？）の受洗のため時々拙宅に来られかなり手抜きの手配を指導して下さり無事受洗しました。

Fr. リントホルスト…私達夫婦を温かく見守って下さり妻の受洗の為に指導いただきました。この時神父様の希望で既に信者であった私も同席しましたが、お話は子守歌に聞こえ殆ど寝ていました。お話が終わって、「絃一さん、よく眠れましたか？」には赤面の至りだったこと思い出されます。

Fr. ホセ・パラシオス…沢山の思い出がありますが、父の帰天（1985・6・10）に際し終油の秘跡を授けるために拙宅に来られた時の出来事は、今でも神父様に感謝です。式が終わり葬儀の準備やあちこち連絡をしたりでばたばたしているとき、娘達（小1, 小3）が帰ってこないの心配していたら、神父様が「私が学校に迎えに行きましょう」と言われ、車で送ってもらいました。その時担任の先生から「今、外人さんが迎えに来たと聞いてますが、どうしましょうか？」との電話が掛かり妻は「あー、その方は教会の神父様なので心配ありません」10分後、神父様の車で無事帰ってきました。感謝、感謝。まだまだ思い出は沢山ありますが、この辺でペンをおきます。長々と拙文お許しください。

K. 玉井

註：^{ようらんき}揺籃期…幼年時代、転じて物事の発展する初期の段階。

* 丸川神父さまと家族と右の写真は
玉井さんのおばあさま



キリスト教一致祈祷集会 1/19 (金)



午後1時30分より、長府教会の聖堂をお借りして細江教会担当で行われました。

日本キリスト教団丸山教会の餅原牧師、他の教団の方々と百瀬神父、作道神父、細江・彦島・長府教会の各信徒を含め約30名が集まり、戦争犠牲者や自然災害被災者のために祈りました。



教会建替え状況（解体作業と整地）



* 昨年から続く解体作業。左側がセンター



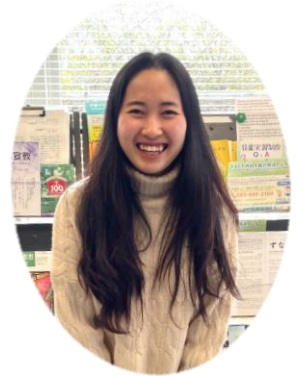
* すっかり細江教会の建物がなくなり、裏の幼稚園の園庭が見えてきました。



ベトナム青年たち

「皆さま！よろしくお願いします！」と
明るい声で応えてくれました。

☆いつも笑顔の素敵な
チャン ディ フォンさん。



☆ ゲエン フック ラムさん
22才独身。小月に在住。
スポーツが好き。
彼女はいません。

☆ゲエン ティトウイ ガーさん
職場はめんたいこの会社、
独身 23才、小倉在住。



☆ホアン ヴァン リンさん
24才独身。小倉在住。
めんたいこの会社に勤務。

☆ ドウングさん、33才。
独身。サッカーと旅行が
好きです。日本の料理も
とても好き(お寿司も)



//お願い//

2月20日からは車の乗り入れはできません。
近隣の駐車場をご利用ください。
本来のセンター玄関は使用できません。

日和山階段側からの
出入りとなります。
(ベランダを通り
公園側から出入口)



* 日和山階段側



* ベランダへ



☆ 今年 29 才。
いつも明るいフェイスさん。
左腕に怪我をしたけれど、
元気になりましたか？

シーモールの au ショップに勤めています。